



覚せい剤の摘発件数が過去最高を記録

～ 平成21年の大阪税関における密輸動向について～

大阪税関は、平成21年の1年間に管内の空港や海港において摘発した不正薬物の密輸を始めとする関税法違反嫌疑事件の実績を取りまとめましたので、お知らせいたします。

•TOPICS•

1. 覚せい剤については、航空機旅客による密輸事犯が相次ぎ、摘発件数は37件（前年比148%）と、前年に続いて過去最高を記録。押収量は約48kg（前年比217%）で過去5番目を記録した。地方港においても大口事犯の摘発が続いた。
2. 大麻類やMDMA等・向精神薬の錠剤型薬物については、摘発件数、押収量ともに減少した。
3. ヘロインの摘発は4年振り、コカインについては、5年振りに大口事犯を摘発した。
4. 1件当たりの押収量については、覚せい剤、大麻類とともに1kgに満たない事犯が多発、小口・分散化の傾向が続いている。
5. 不正薬物の仕出国（地域）数は、近年増加傾向にあり、特に覚せい剤については、従来見られなかったナイジェリア、ウガンダ、ケニア、レソトといったアフリカ諸国やロシアからの事犯の摘発があり、仕出国（地域）の拡散化傾向に拍車がかかっている。
6. 密輸入形態別では、航空機旅客によるものが約6割で引き続き最も多く、次いで国際郵便によるものが約3割を占めている。
7. 隠匿手口としては、携行バッグ類の二重工作、携行品への隠匿工作、身辺・体内隠匿が主流となっている。

【お問い合わせ先】 大阪税関調査部特別審理官（第1担当）今川、藤原
電話 06-6576-3124・06-6576-3138

平成21年の大阪税関における不正薬物等の摘発状況等

1. 不正薬物別の摘発状況

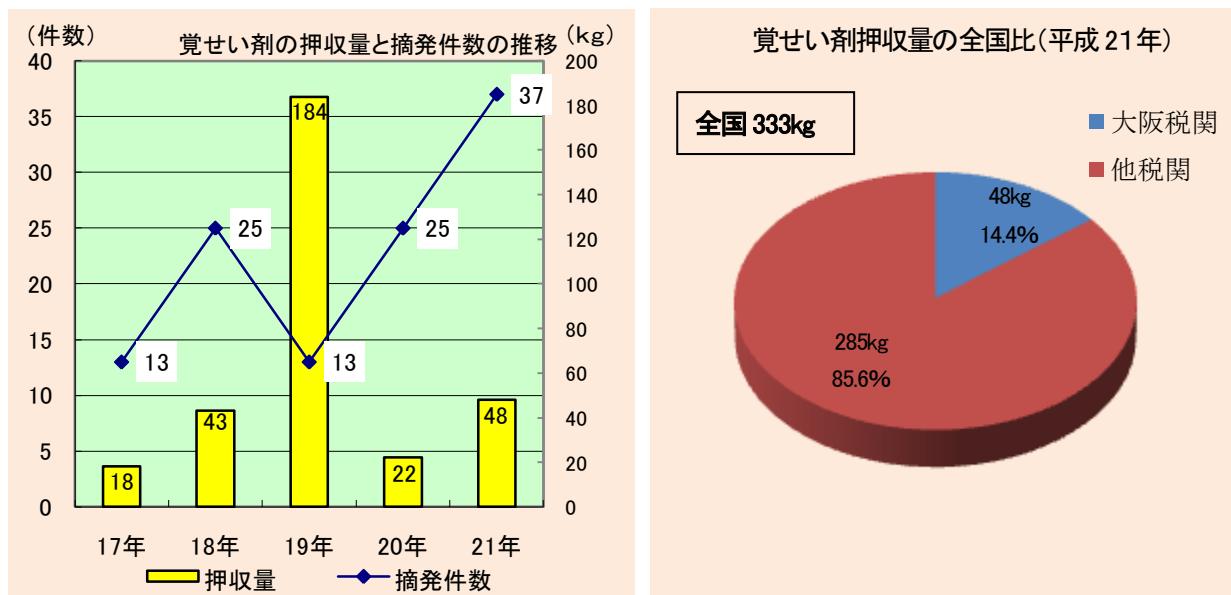
(1) 【覚せい剤】 — 全国摘発件数の22.6%、押収量は14.4% —

イ. 摘発件数は37件(前年比148%)であり、前年の25件を上回り過去最高を記録した。

押収量も約48kg(前年比217%)と前年の22kgから大幅増となり、比較可能なデータのある昭和55年以降では5番目の記録となった。

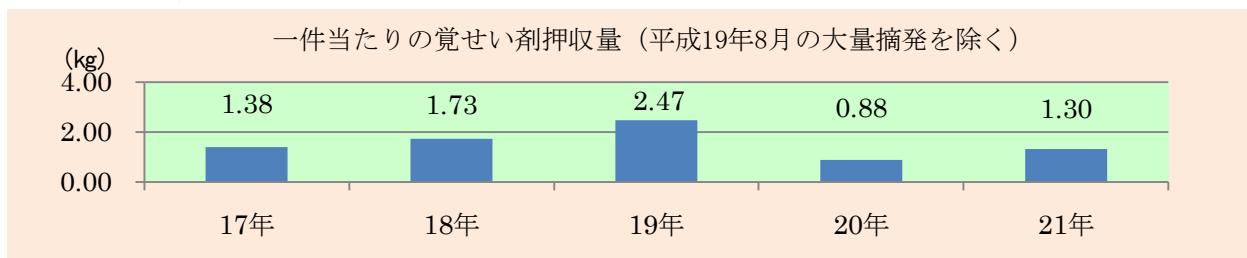
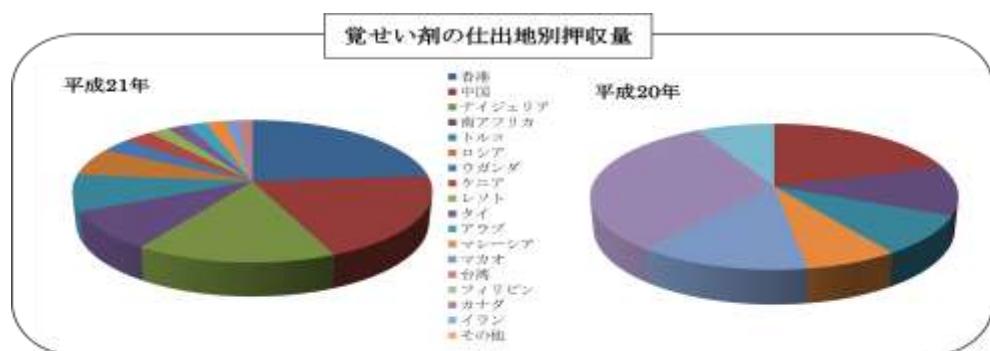
ロ. 主な摘発事例としては、香港来国際スピード郵便物を利用して、茶袋内に分散隠匿された約8.5kgのほか、中国から関西空港に到着した旅客2名の携行品(木製酒化粧箱)に隠匿された約1.8kgがある。

ハ. 地方港では、マカオから小松空港に到着した旅客の携行キャリーケース二重底に隠匿された約700g、ロシアから伏木港に入港した船舶の旅客の携行スーツケース二重底に隠匿された約3kgと摘発が続いた。

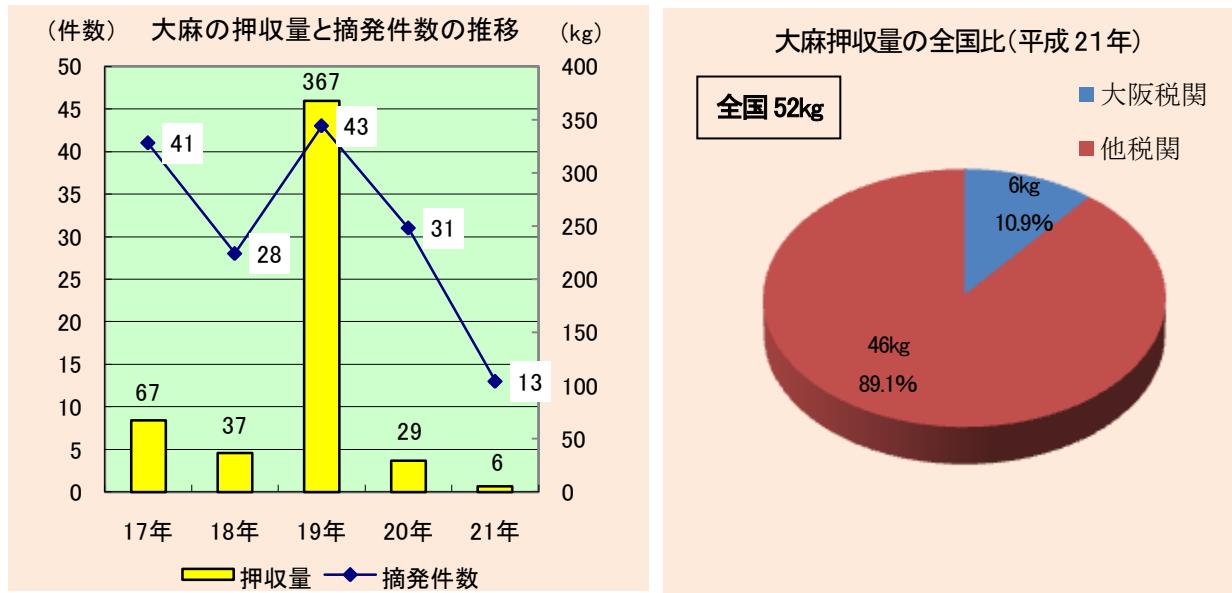


ニ. 仕出地別の摘発件数は、中国の9件がトップで、以下順に、香港5件、ナイジェリア、フィリピンがそれぞれ4件、南アフリカ3件、タイ2件と続き、その他が10件であった。

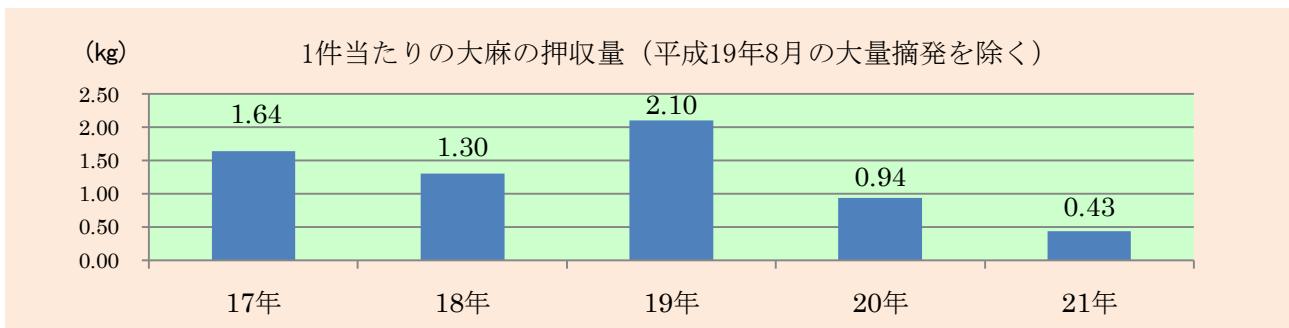
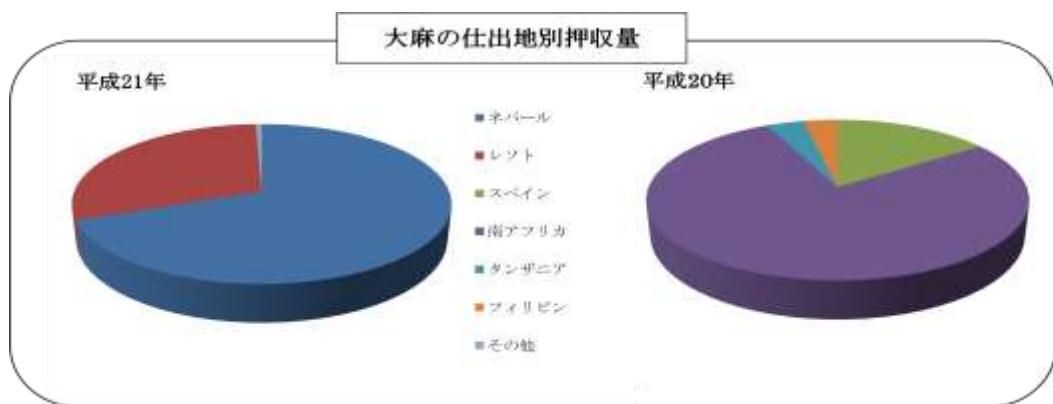
ホ. 仕出地別の押収量では、香港が約11.4kgでトップ、以下順に、中国約9.4kg、ナイジェリア約7.6kg、南アフリカ約4.3kg、トルコ約4kg、ロシア約3kgと続いている。



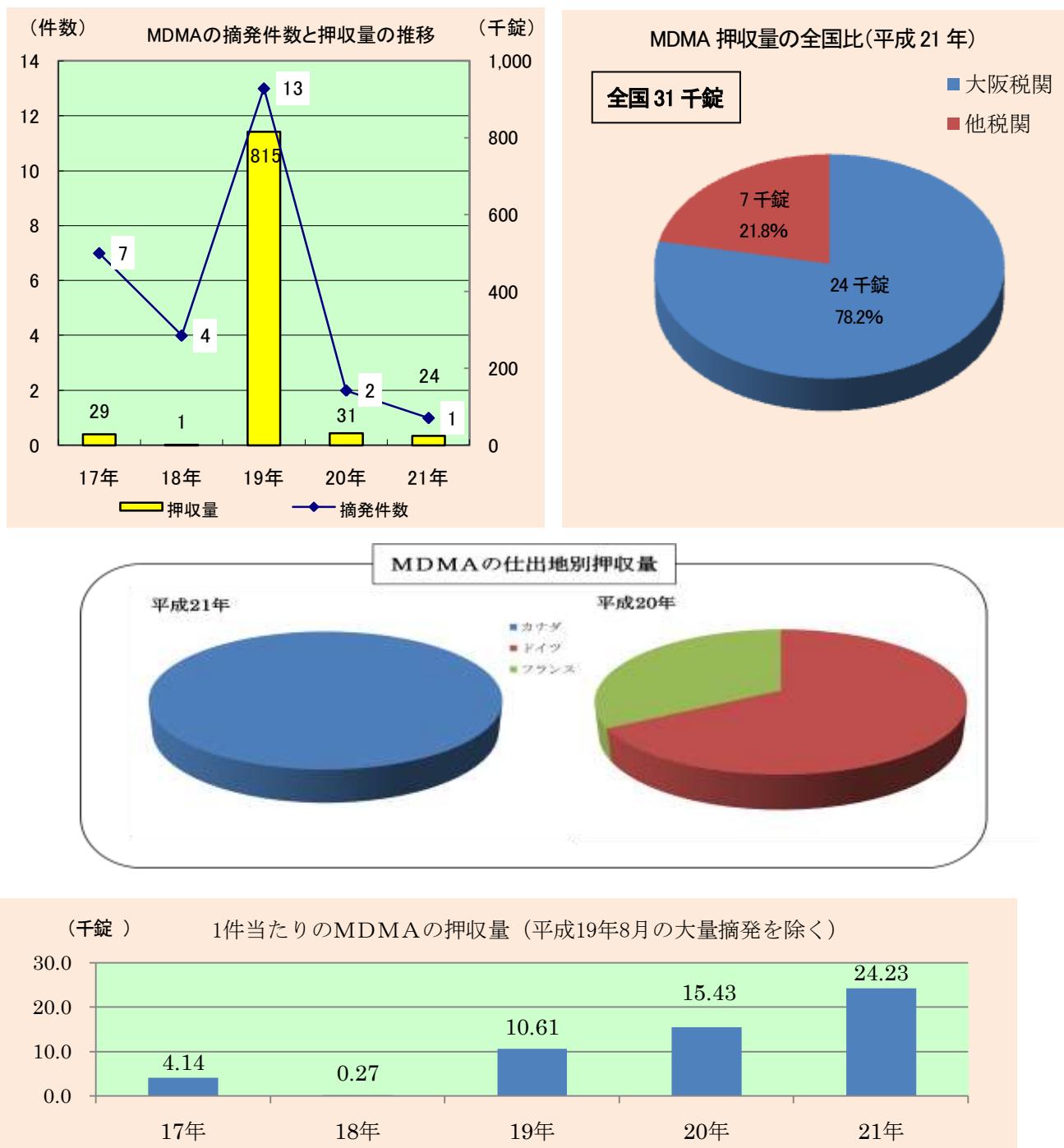
- (2) 【大麻】 — 全国摘発件数の11.7%、押収量は10.9% —
- イ. 摘発件数は13件(前年比42%)、押収量は約6kg(前年比19%)と、摘発件数及び押収量ともに前年(31件、29kg)から大幅に減少した。
- ロ. 主な摘発事例としては、ネパールからタイ・バンコクを経由して関西国際空港に入国した航空機旅客の携行スーツケース二重底に隠匿されていた大麻樹脂約3.9kgがある。



- ハ. 仕出地別の摘発件数は、米国が3件でトップ、次いで、ネパール、スペイン、レソトがそれぞれ2件、その他が4件であった。
- ニ. 仕出地別の押収量では、ネパールの約3.9kg、レソトの約1.7kgで全体の99%以上を占めた。



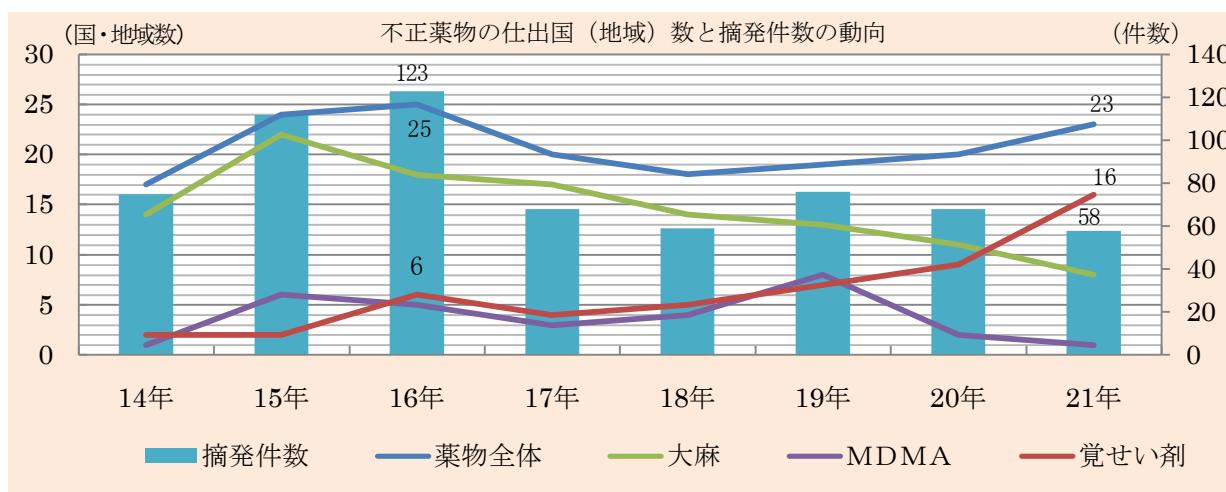
- (3) 【MDMA】 — 全国摘発件数の25%、押収量は78.2% —
- イ. 摘発件数は1件(前年比50%)のみで、押収量は約2万4千錠(前年比78%)であり、前年の2件、3万1千錠から減少した。
- ロ. 摘発事例は、カナダから関西国際空港に入国した航空機旅客の携行キャリーケースの二重底に隠匿していたものである。



2. 不正薬物全体の摘発動向

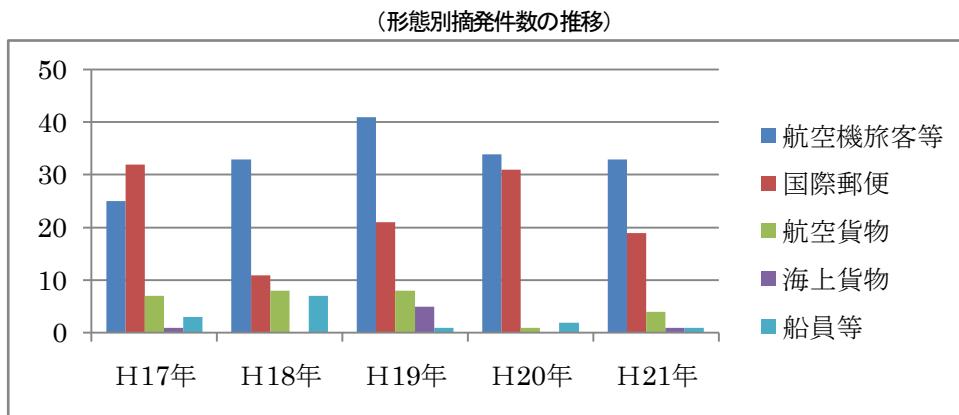
(1) 仕出国（地域）数の推移

従来、不正薬物の仕出国（地域）数の増減は、不正薬物の摘発件数に対応するのが一般的であったが、最近、不正薬物全体の摘発件数が漸減しているにもかかわらず、仕出国（地域）数に増加傾向が認められ、平成21年については、摘発件数が近年のピークである平成16年の半数程度であるにもかかわらず、仕出国（地域）数は平成16年の25カ国（地域）に次ぐ23カ国（地域）となっており、特に覚せい剤については、従来見られなかったナイジェリア、ウガンダ、ケニア、レソトといったアフリカ諸国やロシアからの事犯の摘発があり、仕出国（地域）の拡散化の傾向に拍車がかかっている。



(2) 形態別摘発件数の推移

不正薬物の密輸入手口を形態別に見ると、航空機旅客等による密輸入が33件（構成比57%）、国際郵便によるもの19件（構成比33%）と、航空機旅客等や国際郵便による密輸事犯が太宗を占めた。



（注）船員等には、船舶旅客・別送品（船便）を含み、航空機旅客等には、航空機乗組員・別送品（航空便）を含む。

3. その他の摘発状況

(1) 商標権侵害物品

7月、中国来海上コンテナ貨物から、大量の商標権侵害物品（錠剤、財布等）約5万8千点を摘発。

(2) メチロン

8月、オランダ来通常郵便物から、平成19年に新たに麻薬に指定された二メチルアミノー一一（三・四メチレンジオキシフェニル）プロパン一一オン（通称名メチロン）を立て続けに3件摘発。

(3) けん銃部品

12月、米国来通常郵便物から、けん銃部品を摘発。

表 1

全国税関における主な社会悪物品摘発一覧表
(過去5年間)

年 種別		17年	18年	19年	20年	21年	前年比
覚せい剤	件 kg	33 88	82 140	72 287	110 408	164 388	149% 82%
大 麻	件 kg	243 588	195 196	168 491	123 87	111 52	90% 60%
大麻草	件 kg	178 385	136 130	126 450	96 63	87 40	91% 63%
大麻樹脂	件 kg	65 203	59 66	42 41	27 24	24 12	89% 51%
ヘロイン	件 kg	3 0	3 2	4 1	4 1	4 1	100% 112%
コカイン	件 kg	5 2	12 7	17 16	7 2	10 13	143% 712%
あへん	件 kg	3 0	6 27	6 17	0 0	4 3	全増 全増
MDMA等	件 千錠	25 234	30 115	64 1,315	15 139	4 31	27% 22%
向精神薬	件 千錠	28 15	50 27	28 12	34 20	30 10	88% 50%
合 計	件 kg 千錠	340 679 249	378 377 142	359 811 1,326	293 498 159	327 403 41	112% 81% 26%
参考 (使用回数)	万 回	606	629	1,289	1,388	1,191	86%

銃 砲	件 丁	2 4	4 15	6 10	1 1	2 2	200% 200%
銃砲部品	件 点	0 0	2 3	3 4	3 3	1 2	33% 67%

- (注) 1. 数字は摘発ベースのものであり、税関が摘発した密輸事件に係る押収量の他、警察等他機関が摘発した事件で、税関が当該事件に関与したものに係る押収量を含む。
2. 覚せい剤は、覚せい剤及び覚せい剤原料の合計数量を示す。
3. MDMA等は、MDMA及びMDA等の合成麻薬の合計数量を示す。
4. 使用回数は、乱用者の通常の一回分使用量をもとに換算したものである。
(覚せい剤 : 0.03 g、大麻草 : 0.5 g、大麻樹脂 : 0.1 g、ヘロイン : 0.01 g、コカイン : 0.03 g、あへん : 0.3 g、MDMA及び向精神薬 : 1錠)

表 2

大阪税関における主な社会悪物品摘発一覧表
(過去5年間)

年 種別		17年	18年	19年	20年	21年	前年比
覚せい剤	件	13	25	13	25	37	148%
	kg	18.0	43.1	183.8	22.1	47.9	217%
大 麻	件	41	28	43	31	13	42%
	kg	67.5	36.5	367.2	29.3	5.7	19%
大麻草	件	32	16	29	26	8	31%
	kg	60.4	20.6	357.0	24.8	1.7	7%
大麻樹脂	件	9	12	14	5	5	100%
	kg	7.1	16.0	10.2	4.5	3.9	87%
ヘロイン	件	2	0	0	0	2	全増
	kg	0.1	0.0	0.0	0.0	1.2	全増
コカイン	件	0	0	2	1	2	200%
	kg	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	848倍
あへん	件	0	0	1	0	0	-
	kg	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
MDMA等	件	7	4	13	2	1	50%
	千錠	29.0	1.1	815.3	30.9	24.2	78%
向精神薬	件	5	2	4	9	3	33%
	千錠	4.5	2.4	1.0	1.3	0.3	26%
合 計	件	68	59	76	68	58	85%
	kg	85.6	79.7	551.0	51.4	57.5	112%
	千錠	33.6	3.5	816.3	32.2	24.6	76%
参考(使用回数)	万回	84	164	776	86	187	217%

銃 砲	件	0	2	0	0	0	-
	丁	0	3	0	0	0	-
銃砲部品	件	0	1	1	0	1	全増
	点	0	1	2	0	2	全増

- (注) 1. 数字は摘発ベースのものであり、税関が摘発した密輸事件に係る押収量の他、警察等他機関が摘発した事件で、税関が当該事件に関与したものに係る押収量を含む。
 2. 覚せい剤は、覚せい剤及び覚せい剤原料の合計数量を示す。
 3. MDMA等は、MDMA及びMDA等の合成麻薬の合計数量を示す。
 4. 使用回数は、乱用者の通常の一回分使用量をもとに換算したものである。

(覚せい剤 : 0.03 g、大麻草 : 0.5 g、大麻樹脂 : 0.1 g、ヘロイン : 0.01 g、コカイン : 0.03 g、あへん : 0.3 g、MDMA及び向精神薬 : 1錠)

表 3

関西空港税関支署における主な社会悪物品摘発一覧表
(過去5年間)

年 種別		17年	18年	19年	20年	21年	前年比
覚せい剤	件 kg	10 18.0	15 31.6	9 26.4	19 22.1	24 30.7	126% 139%
大 麻	件 kg	19 33.3	22 36.5	28 49.4	13 28.3	8 5.6	62% 20%
大麻草	件 kg	13 26.3	13 20.5	20 48.1	11 23.8	5 1.7	45% 7%
	件 kg	6 7.1	9 16.0	8 1.2	2 4.5	3 3.9	150% 87%
ヘロイン	件 kg	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.2	全増 全増
コカイン	件 kg	0 0.0	0 0.0	2 0.0	0 0.0	2 2.7	全増 全増
あへん	件 kg	0 0.0	0 0.0	1 0.0	0 0.0	0 0.0	— —
MDMA等	件 千錠	3 28.7	3 0.0	7 117.1	2 30.9	1 24.2	50% 78%
向精神薬	件 千錠	0 0.0	2 2.4	1 0.0	1 0.0	0 0.0	全減 全減
合 計	件 kg 千錠	32 51.3 28.7	42 68.1 2.5	48 75.8 117.1	35 50.4 30.9	36 40.2 24.2	103% 80% 78%
参考 (使用回数)	万 回	75	126	111	86	129	150%

銃 砲	件 丁	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	— —
銃砲部品	件 点	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	— —

- (注) 1. 数字は摘発ベースのものであり、税関が摘発した密輸事件に係る押収量の他、警察等他機関が摘発した事件で、税関が当該事件に関与したものに係る押収量を含む。
2. 覚せい剤は、覚せい剤及び覚せい剤原料の合計数量を示す。
3. MDMA等は、MDMA及びMDA等の合成麻薬の合計数量を示す。
4. 使用回数は、乱用者の通常の一回分使用量をもとに換算したものである。

(覚せい剤 : 0.03 g、大麻草 : 0.5 g、大麻樹脂 : 0.1 g、ヘロイン : 0.01 g、コカイン : 0.03 g、あへん : 0.3 g、MDMA及び向精神薬 : 1錠)

平成21年の大阪税関の主な摘発事例

1. 航空機旅客

(1) 覚せい剤【5月 関西国際空港】

中国から到着した日本人男性2名が各自携行していた化粧箱入り酒の箱底部を二重工作して隠匿されていた覚せい剤合計約1.8キロを発見・摘発



(2) 大麻【7月 関西国際空港】

ネパールからバンコクを経由して到着したネパール人男性が携行していたスーツケースの二重底に隠匿されていた大麻樹脂約3.9キロを発見・摘発。



(3) MDMA【10月 関西国際空港】

カナダから仁川を経由して到着したカナダ人男性が携行していたキャリーケースの二重底に隠匿されていたMDMA約2万4千錠を発見・摘発。



(4) ヘロイン【7月 関西国際空港】

コートジボアールからドバイを経由して到着したフランス人男性が携行していたブリーフケースの二重底に隠匿されていたヘロイン約1.2キロを発見・摘発。



(5) コカイン【7月 関西国際空港】

7月、ブラジルからドバイ経由で到着したフランス人男性が携行していたショルダーバッグ側面等を二重工作して隠匿されていたコカイン約2.5キロを発見・摘発。

(ショルダーバッグ)



(側面からコカインを発見)



(隠匿されていたコカイン)



2. 船舶旅客【2月 伏木港】

ロシアから入港した船舶のロシア人男性旅客が携行していたスーツケースの二重底に隠匿されていた覚せい剤約3キロを発見・摘発。

(スーツケース)



(解体状況)



(隠匿されていた覚せい剤)



3. 国際郵便【11月 大阪外郵】

香港来の国際スピード郵便物内に収納された茶袋147袋に分散隠匿されていた覚せい剤約8.5キロを発見・摘発。

(香港来国際スピード郵便物)



(紙箱から茶袋を取り出したところ)



(隠匿されていた覚せい剤)



4. 海上コンテナ貨物【7月 大阪港】

中国から到着した海上コンテナの最奥部に積み付けられた段ボール箱56箱内に隠匿されていた商標権侵害物品約5万8千点を発見・摘発。

(コンテナ最奥部に積み付け)



(隠匿されていた偽バッグ等)



(隠匿されていた偽バイアグラ)

